

- 残事業の投資効率性が、基準値を下回った場合には、事業内容の見直し、中止等の判断が必要となる。
- 表 I -2.2 の判断基準によれば、残事業の投資効率性が基準値以上 ( $B/C \geq 1.0$ ) であれば、事業全体の投資効率性が基準値未満 ( $B/C < 1.0$ ) であっても「基本的に継続」となり、残事業の投資効率性の方が、事業継続の判断として優先される。但し、その場合、事業全体の投資効率性が基準値を下回った理由や改善方策などの対応方針を明らかにし、事業継続の理由が需要者に理解が得られるようにする。

表 I -2.2 再評価時の判断基準

残事業の投資効率性	事業全体の投資効率性	投資効率性の観点からの評価結果の取り扱い
基準値以上	基準値以上	継続
	基準値未満	基本的に継続とするが、事業内容の見直しを行う
基準値未満	基準値以上	事業内容の見直し等を行った上で対応を検討
	基準値未満	基本的に中止

(注) 基準値以上とは、 $B/C$  が 1.0 以上であること

(出典) 公共事業評価の費用便益分析に関する技術指針(平成 16 年 2 月,国土交通省)